

養福寺の沿革

先代四世住職は、岡山県養福寺の住職を経て来道、中央寺に安居す。昭和四十五年中央寺七世秦慧玉老師の御許可を戴き、現在地札幌市西区西野の地に、寺院建設用地三百坪を求めた。当時の西野は数戸の農家が点在する水田地帯であった。

昭和四十八年三月本堂(八間四面)外に納骨堂、庫裡の建設に着工、同年十一月一日に完成。

昭和四十九年六月十六日晋山落慶法要を修し、御開山秦慧玉老師より「正信山」秦慧昭禪師(大規正信禪師)の二文字を山号として拝受す、以来境内地を拡張し漸次改築を行う。

平成二年五月不老閣、大書院客殿、本堂増築、納骨堂移設を完了す。平成三年四月中中央寺八世宮崎奕保老師より山門一字を拝領直ちに移設建立し記念として境内に「放生池」を開く。

平成十四年十二月隣接地二百六十坪を取得し離れを建立。

五世住職は、平成二十四年より正面門柱、擁壁、境内地に無縁供養堂、禪庭園並びに無縁観音堂、歴住塔等を整備。併せて無縁合葬墓を建立。